

# 環境と建築

## 第3回

建築物や構築物は、その計画から設計、建設、運用、改修、廃棄に至るまで、自然環境や地域の土地柄、風土を常に意識しつつ、地域住民や利用者に対するサービスを担っています。

本シリーズでは、道内の建築物や構築物が環境をどのように意識し、どのような手法でサービスを行い、どのように利用されているかをキーワードで紹介します。

# 「地区のアートと観光」

## 釧路シビックコア地区整備計画

釧路市住宅都市部都市計画課  
都市開発指導主幹

岸本 勉

“シビック”は‘都市の’または‘市民の’、“コア”は‘核、中心’を意味します。

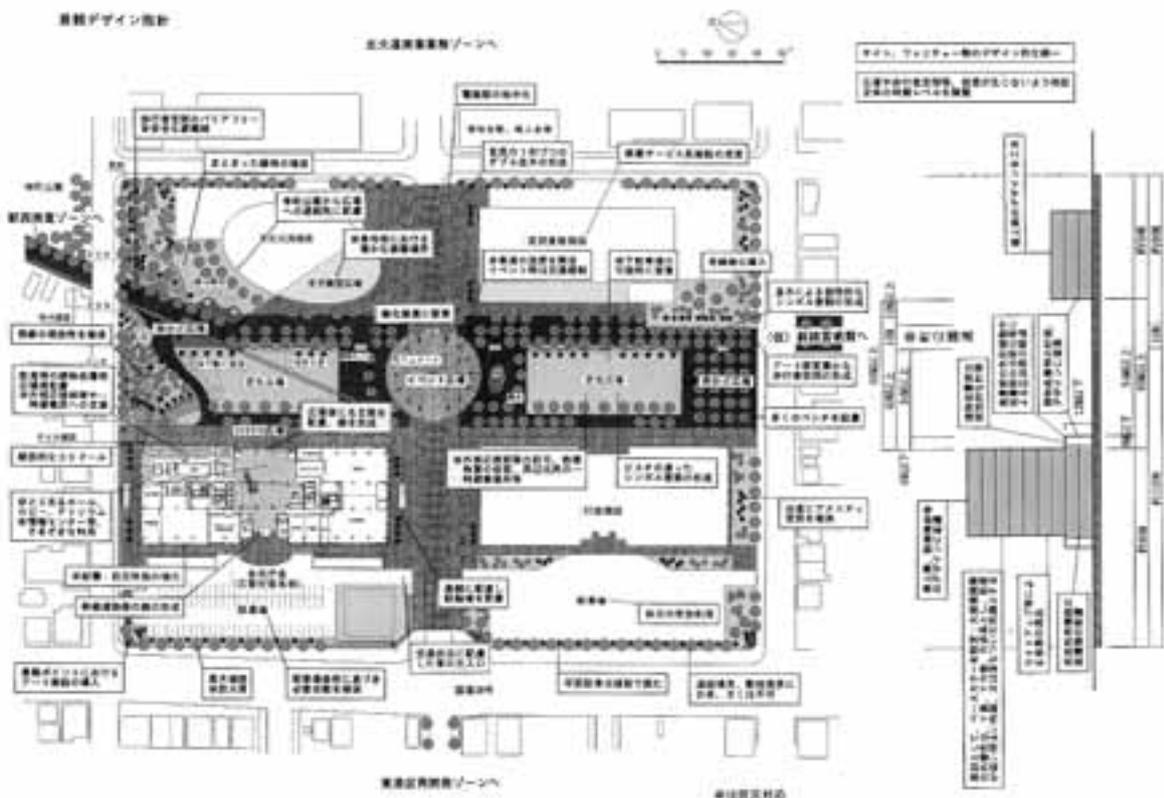
地域住民の安全で豊かな生活を支える、さまざまな行政サービスを行っている官公庁、そしてその施設は、街づくりや地域の環境形成という点で大事な役割を担っています。

『シビックコア地区整備制度』は、そのような官公庁施設の都心立地にあたって、民間建築物等

と一緒にひとつの地区にまとめて整備し、地域住民に対する都市機能の利便性を高めるとともに、魅力とにぎわいのある都市の拠点“シビックコア”の形成を目指しています。

### ■ 4つの大街区造成と4施設の導入

現在、道内では当市の他に、旭川市と八雲町の2市町で整備計画が策定され、関連する都市整備





隣接地のホテル屋上から見た『釧路シビックコア地区』  
計画は4施設の建設、センターサークルから左上方が国の合同庁舎、右が釧路市子ども遊学館、他に行政施設と民間業務施設を導入予定

事業との連携を図りつつ、それぞれに創意工夫と地域の特色を生かした拠点整備を進めています。

『釧路シビックコア地区整備計画』では、新しい機能が導入できるように、十字に交差する2本の都市計画道路で区域を4つの大街区に分け、そこに4つの施設を配置します。

地区の核となる公共建築物は3施設、地区に必要な民間建築物は1施設を計画しています。

#### ①国の合同庁舎～釧路地方合同庁舎

市内各所に点在し、施設の狭隘・老朽化が著しい国の機関を移転集約、利用者の利便性と公務効率の向上を図るとともに、地震多発地帯・道東地域における防災拠点施設として整備。

・2000年8月完成、SRC造地下1階地上9階建、延25,063㎡、免震構造、7官署が入居

#### ②他の行政施設（予定）

市庁舎、または道の支庁舎を移転し、国の合同庁舎とともに、新たな行政拠点を形成します。

#### ③民間の業務施設（予定）

行政施設の隣接地へ立地優位性を持つ対事業所サービス等の業種や団体等が入居する民間業務施設を誘致するとともに、低層階部に商業サービス系のにぎわい施設の入居を誘導。

#### ④市の文化交流施設～釧路市子ども遊学館

主に子どもを対象にした文化交流施設を地区内に導入し、近隣類似施設との相乗効果により、新たな人の流れやにぎわいを生み出します。

・2005年3月完成、S造5階建、延5,884㎡

### ■地区2番目、子ども遊学館のオープン

平成17年7月9日、シビックコア地区内に待望の『釧路市子ども遊学館』がオープンしました。

平成12年8月に竣工した『釧路地方合同庁舎』に続き、地区2番目の施設になる同館は「遊び」ながら「学ぶ」を基本理念に、次代を担う子供を対象にした、科学館と児童館機能を併せ持った施設で、地区内では唯一の文化交流施設になります。

地上5階建て、楕円形状の建物は、外壁のほとんどがガラスで覆われ、巨大な温室を連想させます。

館内1階には中心部の深さが1m、広さ130㎡



地区の『中央広場』と一体化した、子ども遊学館敷地ガラスの向うに球体状のプラネタリウム、その真下に砂場がある



幸町公園側から見た『釧路シビックコア地区』公園横から、地区を南北に貫く歩行者専用道路・幸町公園通



夕陽と霧のポートタウン…ロマン漂う散歩道  
官庁街でありながら、大人から子供までが集う地区を目指す

ほどの卵型をした砂場があり、屋内に設置された砂場としては国内最大級の規模を誇ります。

その砂場がある『さんさんひろば』は、地区中央部に広がるレンガブロックと緑のオープンスペース、地区の『中央広場』と一体化した全天候型広場で、出入り自由の無料ゾーンですから、開館中はいつ来ても、誰でも遊ぶことができます。

雨の日や冬季間でも小さな子供と一緒に親子で遊べますし、車椅子のままでも遊べる砂場も用意されています。屋内ですから、何といても衛生的で子どもたちを安心して遊ばせられます。

砂場を見上げると、頭上に浮んで見える巨大な球体が、プラネタリウム『スターエッグ』。

これも国内初という最新式のハイテク機器を導入し、星の投影数も約26万個と、リアルで精巧な映像は宇宙船に子ども達を乗せて、宇宙探検の旅へと誘います。

## ■新たな行政・業務・文化複合核の形成

釧路駅前を右手、西に向かって歩いていくと、和商市場を中心とした駅西商業ゾーンがあります。

その和商市場で『勝手丼（丼御飯にウニやイクラ等、好みの具材を自由にのせて食べられる）』にしたつづみ、あるいは釧路の新鮮な海の幸を眺めて市場の裏手に出ていくと、南前方に1haほどの都市公園・幸町公園が広がっています。

園内に置かれた旧国鉄時代の蒸気機関車を横目に、公園の西側面に設けられている歩行者専用道路をそのまま南下していくと、交差する道路の向いにある一角が、釧路シビックコア地区です。

地区の面積は約5.6ha、南北方向の長さが約260m、東西方向に約200mの、ほぼ長方形の区域でJR釧路駅から南西に、地区中央部までの直線距離でおよそ550mの位置にあります。

かつてここにあった旧国鉄時代の車両所は、検修場（検査修理場）から公園横を通過して駅まで続く軌道とともに市街地を分断するように存在し、秩序ある都心部の形成に大きな制約となっていました。

しかし一方で、都心に残された唯一まとまった規模の、新規活用が可能な用地でもあったわけです。

その車両所を地区外に移転し、幸町公園等を含む約8.3haの区域を土地区画整理事業により、平成5年度から8年がかりで、公共施設等の整備を進めてまいりました。

その間、平成7年には良好な景観形成及び地域のコミュニティ形成に配慮した、より質の高い公共施設整備を進めるため『ふるさとの顔づくりモデル土地区画整理事業』の指定を受け、平成8年2月承認のシビックコア整備計画とともに、個性と潤いのある街づくりを目指しました。

「ふる顔」整備のテーマとイメージは、  
テーマ：夕陽と霧のポートタウン

～国際観光都市くしろ

イメージ：霧・光・水……ロマン漂う散歩道

あの軌道敷跡は、幅10mの歩行者専用道路・幸町公園通に生れ変わり、そのまま真直ぐに地区の中央部を南北に縦断するプロムナードに。また、東西方向にも幅20mの都市計画道路・9丁目日本通を地区中央でクロスするように横断させて、4つに区画した大街区を造成したのです。

地区の東隣り・黒金町地区はNTTや北電、市役所や道警などが集積する、一団の中核管理業務ゾーンを形成し、さらにその東は、駅前から幣舞橋に至るメインストリート・北大通沿線の都心商業・業務ゾーンが形成されています。

これまでの都心を形成してきた、商業・業務ゾーンの隣へ、国の合同庁舎の建設計画に合わせて他の行政施設を移転集約すると、ここに新たな行政

拠点が形成されることとなりますが、シビックコアの目指すところは、創意工夫と地域の特色を生かした、魅力とにぎわいのあるまちづくりです。

前述の全天候型広場を併せ持った文化交流施設や、低層階に商業サービス系業種が入居した民間業務施設を地区内に導入し、官公庁の閉庁時や雨天時にも本地区ににぎわいを呼び込みます。

また、各施設の敷地利用の連携により、市民に開かれた広場やプロムナードを整備し、あわせて地区の一体的な景観形成により、都心全体の魅力の増進を図ります。

さらに、各施設の耐震性能の強化や安全な避難路、一時避難地の確保など、防災拠点機能を高め道東の拠点都市に相応しい潤いとにぎわいのある新たな行政・業務・文化の複合核を形成します。

## ■整備の特徴と地区のアート

各々の施設、市民に開かれた広場やプロムナードの整備にあたっては、整備計画書に収める『景観デザイン指針』によるコントロールを行い、各事業者間の連携により、地区全体の統一的な景観形成及び緑化修景を図っていきます。

そうした釧路シビックコア地区の、整備の特徴といえる部分について説明します。

### ①中央広場の整備と壁面後退のルール

各々の施設は、整備を進めるにあたり、南北方向の幸町公園通沿いから、一定の幅で建物を後退させ、建物の長軸も南北にそろえます。

各々が敷地の一部を出し合い、敷地境界に柵や塀などを設けず、そこに一体利用に配慮した広いオープンスペース・中央広場を創出します。

幅10mの通りと合わせた、合計55mの一体的な広場は、延長は260mほどですが、札幌市にある大通公園並みの幅を有することになります。

その中央広場は市民らが利用する、散策・憩いの空間です。将来的にはイベント等の催事空間としても活用していきます。

### ②環境軸の形成と防災機能の強化

壁面後退のルールにより創出された中央広場は緑豊かな憩いの空間です。隣接する幸町公園とで連続した環境軸を形成します。



街なかの公園『中央広場』通沿いには池やせせらぎもある釧路の短い夏を惜しむように、子どもたちが水と遊ぶ

地区内外に連続した緑地帯を確保して、災害時の安全な避難路や一時的避難地として、あるいは災害活動の場所としても活用できます。

### ③中央広場に面して市民利用機能を配置

各々の施設は中央広場側にも出入口を設け、低層階には、市民が利用するアトリウムや商業施設などが配置されます。

実際に整備済の施設でいいますと、合同庁舎の建物外周部にはコリドール（回廊）が作られ、雨や雪の日でも快適に歩くことができます。また、庁舎1階に食堂と喫茶室を配置して、中央広場側からの市民利用に配慮した造りとなっています。

遊学館については、前述のとおり屋内に砂場を設置して、夏の短い釧路で、外で遊ぶ機会の少ない子どもたちに「安心、安全な遊び場」を提供します。

今後建設される民間業務施設についても、官公庁施設の従業者や来庁者、さらには南北の環境軸を動線として利用する市民や観光客の利便性向上とにぎわい創出のため、低層階部にカフェ・レストラン、コンビニエンスストア、書店等の商業サービス施設の入居を誘導します。

### ④パブリックアートの導入

以前は地区の大半を車両所施設群が占め、市民にはなじみが薄い地域であることや、直近に道立の釧路芸術館が立地し、地区内にも子ども中心の文化交流施設を導入することから、次代を担う子どもたちにもアート感覚豊かな景観形成を図っていくこと、幸町公園通沿いのオープンスペースに



ジョゼ・ド・ギマラインシュ氏によるパブリックアート

パブリックアートなどを設置しました。

市民らが集い、憩い、散策する、また街を訪れる観光客も歩いてみたいと感じるような、そんなプロムナードや広場にしたいという願いから、噴水、ライティングポール、ベンチや休憩施設、キャラクター性やシンボル性のある小さな作品群など10種類36点を設置。作品は敷地と施設が一体となり、機能を併せ持った、親しまれるアートを創り上げる作家で世界的にも評価が高い、ポルトガルのジョゼ・ド・ギマラインシュ氏のデザインによるものです。

アートは、釧路の名物・霧にも映えるように、赤や青、黄色や緑といった原色を使い、日没になるとアートに組み入れたネオンと合同庁舎外壁のサインが呼応して光を放ち、街路灯や建物から漏れる明かりなどとともに、日没も早い釧路の、街の夜景を演出します。その他にも、道東の温泉観光地・阿寒、弟子屈にある湖や、そこを源に流れる釧路川をイメージした、水を噴き上げる池やせせらぎ等を設置しています。

また、中央広場に並べた枕木の遊歩道は、ここが車両所跡という昔の記憶をとどめたものです。

釧路の自然をモチーフにした、暖かく、ほほえましいアートなどは、シビックコアの一体性、物語性を演出し、境界のない、楽しく潤いある空間を市民に提供しています。

## ■回遊性ネットワーク型の防災拠点の形成

青いモニュメントポールに囲まれたセンターサークルから公園通を、さらに南へ350mほど行くと、レンガ色の釧路芸術館があります。

その横にはラムサール会議が開かれた釧路市観光国際交流センターや港湾緑地、さらに南の幣舞橋が架かる釧路川沿いには、市内観光、レジャーの核施設

『MOO』など…この辺り一帯は都心のウォーターフロント開発・釧路フィッシャーマンズワーフ地区として、釧路の地域特性を生かした水際文化交流核を形成しています。

釧路の街はこれまで、駅周辺と幣舞橋周辺を2極とした商業核や、釧路川沿いの水際文化交流核など、各ゾーンが分散して市街地を形成してきましたが、図らずも、本地区はそれらの要の場所に位置していました。

ここに防災拠点機能を備えた潤いとにぎわいのある中枢ゾーンを形成するとともに、各ゾーンとの結びつきを重視した都心構造へと転換します。

各拠点を結ぶ魅力的なプロムナードを整備して、これまでの都心にはなかった性格の、人の流れやにぎわいを生み出す“回遊性を備えたネットワーク型の都心構造”へ転換し、求心力を失いかけている都心部全体のにぎわいの回復と、都心の復権を目指しているのです。

現在、地区2番目のこども遊学館に続く施設計画が遅々として進まない状況ですが、今後も関連都市整備事業と連携を図りながら、整備計画の完結に向けて、また、市民や街へ訪れる観光客の回遊性を向上させる、魅力とにぎわいある“シビックコア”を目指していきます。

## profile

岸本 勉 きしもとつとむ

1952年釧路市生まれ。'75年日本大学工学部土木工学科卒。同年、釧路市役所入所。下水道部、港湾部を経て、現在の住宅都市部都市計画課に在籍。